

知ろう! 仏教讃歌

(1)

福本 康之

《おんどくさん 恩徳讃》(新譜)

詞・親鸞聖人ご和讃

曲・清水 脩

戦後の新時代に再び選ばれる

となって第2次世界大戦後の新しい時代を象徴する仏教讃歌の創作に取り組み、仏教讃歌活動を盛り上げるべく組織された団体です。そしてこの《恩徳讃》と同時に、《芬陀利華》(詞・川上清吉/曲・山田耕筰)など15作の仏教讃歌(オルガン独奏曲7曲を含む)も、発表されています。しかし当時、私たちの宗門では、すでに澤康雄さんの作

曲による《恩徳讃》(旧譜)が普及していました。そのような状況のなかで、新しい時代の仏教讃歌の創作と普及を目指しつつも、同じご和讃が再び歌詞として選ばれたことは、いかにこのご和讃が私たちの宗門にとって大切なものであるかを物語っている証しであるといっています。

再びこのご和讃が選ばれたその思い、そしてそこに記された親鸞聖人のお心を大切に、歌い継いでいきたいものです。

(本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室長)

私たちの宗門は、仏教讃歌活動がもっとも盛んな宗派として知られています。それは単に歌われる機会が多いというだけではなく、発表された作品も優に千を超え、全国各地で演奏に、創作にと、さまざまな活動が展開されています。

そして本願寺での法要など、門信徒の集うところでは必ず歌われているといっても過言ではありません。この清水脩さんの作曲による《恩徳讃》(新譜)は、親鸞聖人のご和讃(『正像末和讃』『三時讃』の結讃)を歌詞として昭和27(1952)年、仏教讃歌刊行普及会から発表されました。同会は本願寺の第23代勝如上人を名誉総裁に、宗門一丸



恩徳讃の新譜が初めて掲載された仏教讃歌刊行普及会の『BUKKYO SANKA』



収録CD: 『仏教讃歌一歌集』
収録楽譜: 『仏教讃歌一歌集』
(本願寺出版社刊)

※スマートフォン、タブレットなどで上記QRコードを読み込むと掲載曲を聴くことができます。ご加入のプランなどに注意してご利用ください